

私の眺めで、ある図書館

FREE
おかねは
いらない
マガジン

本と



GENIC



無
事

生駒市図書館 本館

2026年春、リニューアルオープン



ミルミル シルシル

違う景色と出会う。

知らないを知る。

ちよっと大胆、時々冒険。

私だけの特別な時間は

自由が踊る、

心ではしゃいで、夢をみる。

本ある空間の

柔らかなヒトコマを

写真を中心にいろいろりたい。

そんな、フリーペーパーです。





ゴロゴロしながら過ごせまんねん

秘密基地みたいな
絵本のある空間
ひよこコーナー





まる、さんかく、しかく。トンネルが印象的な「ひよこコーナー」では、みんな穴の中でコソッと居座りたくなる。ヒミツの仕掛けに子どもは（大人も）大興奮!たくさんの絵本の中からお気に入りを見つけては、自分だけの世界を満喫するんだね。

そんな「巣ごもり」が楽しいひよこコーナーは、いこまの山なみをデザインした、ふんわり風通しの良い屋根も魅力的だ。上からチラッと覗いて子どもの様子が見れるのもいいね。今日はどんな表情で本と触れ合っているのかな。



夢中になるなる。絵本の読み聞かせ。



児童書コーナー
明るく、見やすく、
開放的に。

本棚の配置を工夫したことで明るく開放的な感覚が増しているのは、気のせいじゃないはずだ。ちょっとした変化がもたらす彩りは、日々の暮らしで感じる何気ない幸せと同じだ。カーペットや椅子、カテゴリ分けのサインもさりげなく新調され、小さな発見が楽しすぎる。



子どもたちが思いきり楽しめる「ひよこコーナー」は、トンネルのあるわくわくする入口や、生駒山をイメージした造作家具が子どもたちの好奇心を引き出し、自然と絵本の世界へ入り込める空間です。裸足で過ごせるスペースには、温かみのある吉野杉を採用し、蚊帳に囲まれたお話会スペースや、高山の竹を使った伝統工芸師によるオブジェが、日常とは少し違う特別な時間を演出し、子どもたちの豊かな感性や創造力を育みます。

そして、そのすぐそばには「暮らしのコーナー」を設け、保護者はダイニングのようなテーブルで読書や調べものを楽しみながら、自然と子どもの様子を見守ることができます。窓から差し込むやわらかな自然光と木製ブラインドが心地よい空間をつくり、親子がお互いの気配を感じながら、それぞれが思い思いの時間をゆったりと過ごせる図書館を目指しています。

空間設計…伊阪洋

- A: 暮らしのコーナー
- B: 生駒の山並み書架
- C: 読み聞かせ椅子とろうそく台
- D: 子供用三角テーブル
- E: 竹のオブジェ
- F: とんねるの向こうはひよこコーナー



竹のオブジェ製作



柄杓師／
奈良県指定伝統工芸士
三原 啓司氏



読書に浸る場所。

chapter 2



キラキラ、窓辺の優しい時間。

一般書
閲覧スペース



優しい調光とおおらかな木製カウンター、本と私の一体感。

読書ラウンジ



図書館では静かに本を読まなくてはならない。もちろんそれは確かなことだが、本を通して空間が「場」になり、たくさんの人や笑顔をつなぐとしたら、日々がルンルン、輝く気がする、ね。

閲覧スペースのカラフルに張り替えられた椅子が、明るく晴れやかな気持ちにさせる。仲間が集まればいつの間にか会話が生まれ、本のこと、日常のこと、今日の夕食の相談（会話は小声でね）・・・コミュニケーションが生まれ、笑顔が眩しい、おおらかな空間になっているのだ。

読書ラウンジは元々郷土資料や専門書が多く並んでいて、ちょっぴり近寄りがたい重さに満ちていた。今回、カフェ風のカウンターやデザイン性の高いオブジェを散りばめた棚など、インテリジェンスでありながら居心地の良い空間に生まれ変わっていて、思わず語りかけたくなる、そんなユーモアと気品があるのです。

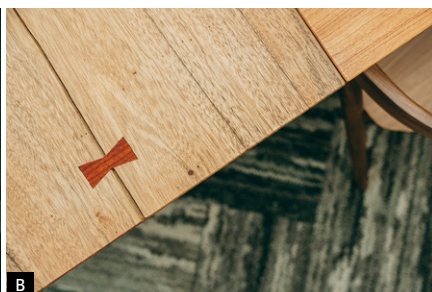


読書ラウンジは、ゆったりと本を楽しみ、それぞれの時間を心地よく過ごせる場所を目指して計画しました。中心には、リビングやウォールナットなど世界の銘木を使った大きな無垢材のテーブルを置き、時を重ねるほどに味わいが深まる、図書館のシンボルとなる家具としています。床にはヘリンボーン柄の木調タイルカーペットを採用し、北欧デザインのPH5ペンダント照明のやわらかな光が空間をやさしく包み込みます。

一般書コーナーには、カリモク60の椅子を採用し、自宅のリビングでくつろぐような、ゆったりと落ち着ける空間を目指しました。新聞や本を思い思いのスタイルで楽しみながら、自然と長居したくなる居心地の良さを大切にしています。素材や光、家具を丁寧に選び、館内全体に心地よい一体感を生み出し、本を通して人と人が自然につながる空間を目指しています。

空間設計…伊阪洋

- A: 本やインテリアを印象的に置く飾り棚
- B: 木の自然な風合いを生かした「ちぎり」でつないだ大きな一枚板
- C: デンマークのデザイナーポール・ヘニングセンのPH5ペンダント「グリーングラデーション」
- D: 読書ラウンジのビッグテーブルのカウンター台
- E: カフェ風のウォールナットのカウンター
- F: カリモク60と緑のコントラストが映えるカーペット



家具職人
stack オーダー家具工房
佐川 瑞人氏



一人になりたい
そんな日、図書館。

閉館時間が近づく黄昏時の図書館は
ロマンチックでさりげない。
わたしだけの時間を刻みながら
満ちてく柔らかな暗がり。





木目が
私を惑わせる

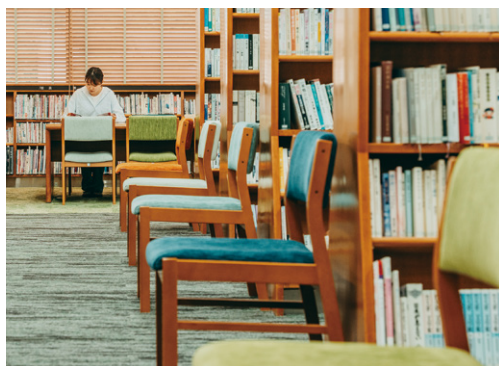
図書館の真ん中にある三角テーブルは、世界のいろいろな森で育った木からできています。木目や色、手ざわりは一つひとつ違って、それぞれの木が歩んできた時間を感じられます。ここで本を読んだり話したりしながら、いろいろな人や考えに出会い、新しい物語が生まれていきます。



製材
有限会社末広産業
後藤 耕作氏



命を吹き込む。何度でもここにいたいから。



建設当時から長年親しまれてきた椅子を大切に活かし、木製フレームはそのままに、張地を色とりどりのファブリックへとリニューアルしました。使い込まれた家具の歴史を受け継ぎながら、新たな彩りを加えることで、訪れる人それぞれが「お気に入りの席」を見つける楽しさを生み出し、本との出会いだけでなく、人と場所とのつながりも育みます。

サイン計画

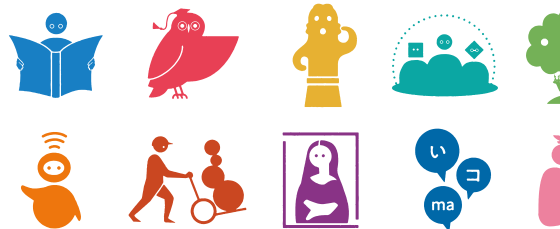
サインは空間を柔らかくする。



サイン計画は複合的で高度な役割を担うようになっていきます。建物全体の魅力を引き立て、機能的で柔軟な空間作りに貢献するために、まずは児童書コーナーのピクトグラムを企画。日本十進分類法（ZDC）に基づいてデザインし、なかなか、独自性のあるかわいいサインを仕立てることに成功した。図書館オリジナルグッズのデザインにも展開され、多面的に機能している。また、円形のエレメントに生駒の風土をイメージした色彩設定で調和を図ったグラフィックを開発し、パフォーマンススペースや館内パンフレットを象徴的に彩っている。

グラフィックデザイナー：甲斐俊也

時代小説（文字・ピクトグラム）
日本十進分類法（ピクトグラム：げんこ）
バリアフリー コーナー（文字）
書架番号（数字）
マナー表示（ピクトグラム）
日本十進分類法（ピクトグラム：セカンダリーシリーズ）
日本十進分類法（ピクトグラム：そうき）
イコメンドコーナー
パフォーマンスエリア（円形エレメント）



図書館

わたしの気持ちに入ッ



生駒市図書館本館 館長
西野 貴子氏

新しくなった図書館の家具や内装は、それ自体に強い主張はなく、機能的かつシンプルなデザインです。不思議なことに、それらが集まると一つの調和が生み出され、使う人に優しさや居心地の良さを感じてもらえるようになっています。どのように使うかは、その人次第。その大事な仕上げのピース作りを、私たち市民と図書館員で担っていきたいと思います。そういう意味では、このリニューアルは終わることが無く、常に進化し続けるもので、今から未来の図書館が楽しみです。

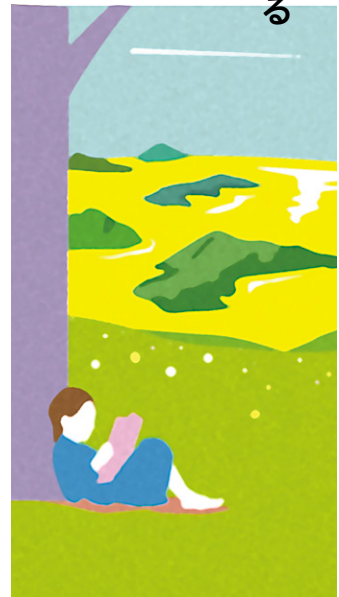
小学1年生のわたしは、夏休みの宿題の絵日記に苦戦していた。アニメの世界ではない、小学1年生の日常。朝はラジオ体操に行く。朝ごはんを食べる。10時まで夏休みの宿題をする。終われば海へ泳ぎに行く。歩いて10分の海水浴場へ。蒲鉾の板を再利用した“命綱”とバスタオルを持参し。2時間の決められた時間で海水浴は終了。昼ごはんを食べ、昼寝をする。夕方にはアニメの再放送を見たり、セミ捕りをしたり。そして晩ごはんを食べ8時には眠る。そんな毎日。同じことを繰り返し絵日記に1行書く。絵日記の必要性が理解できない。

そんなことを夏休みの登校日に担任に伝えた。担任は「思ったこと感じたことを想像してください。それを絵日記にかいてみてください。」「想像するには本を読むといいですよ。」と。想像？知らないワードがわたしの世界に飛び込んできた！どうやら絵日記を簡単にかけてしまうものようだ。

それからは想像するべく、本を読んだ。文字より広がる世界。本の中を自由に旅する。それは今も続いている。6歳児の疑問から、想像力を得、人生における様々な場面で助けられている。ありがとうわたし！

文：Rie Noma

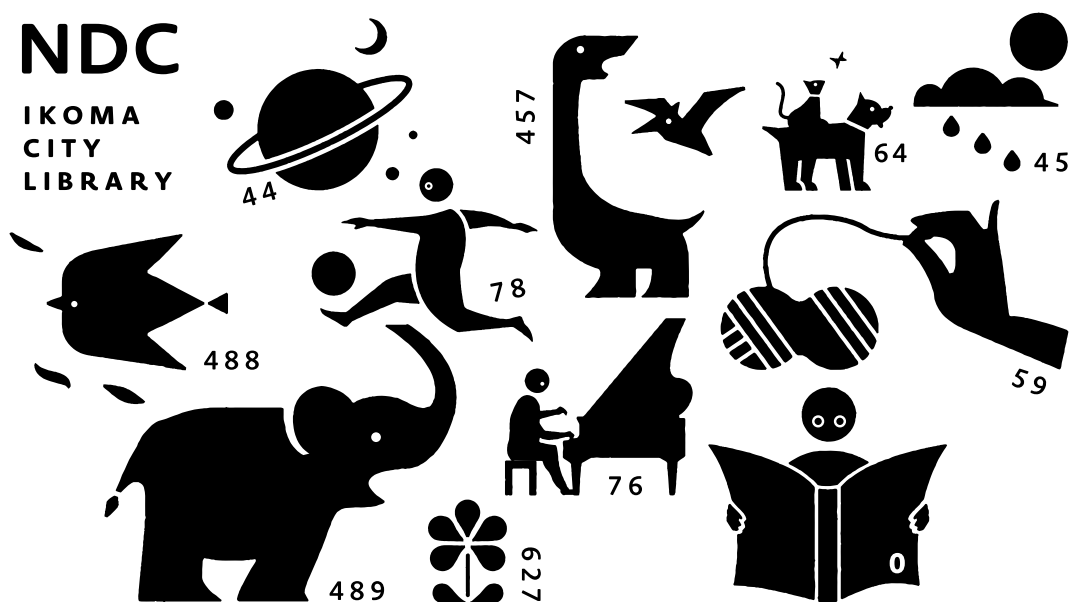
本と旅する



プロデューサー：伊阪洋
アートディレクター・デザイン：甲斐俊也
企画・構成：viewuun
写真：都甲ユウタ
協力：生駒市図書館

発行：空間設計

グッズ販売してるよ



本とGENIC

2026年8月1日発行(1)